



玉川のほとり

平成
1124年
4月
112日

万葉集700

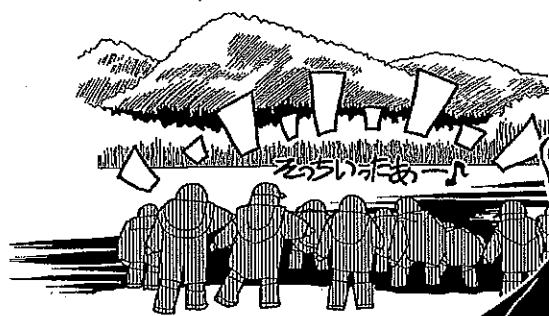


いやあ、

今年の放流式も
無事にできて
良かったですね。

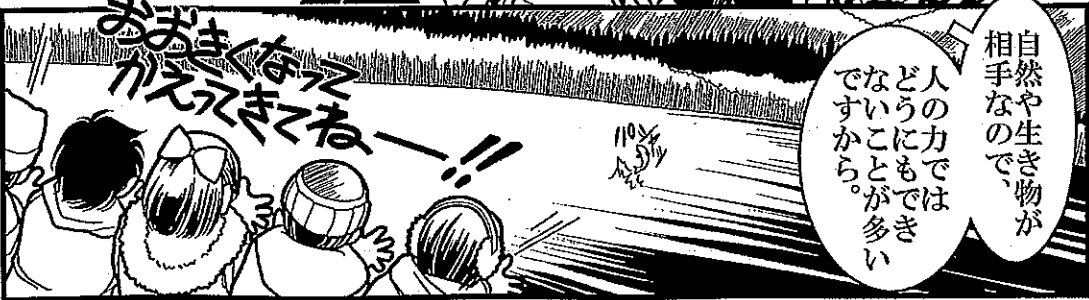
全くですね。

今回も
色々あって
大変でした。



自然や生き物が
相手なので、

人の力では
どうにもでき
ないことが多い



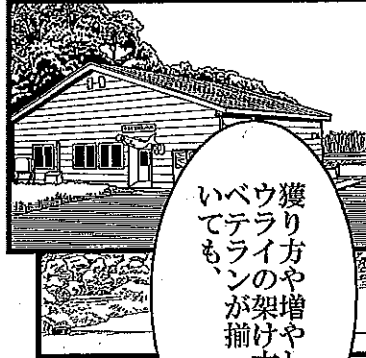
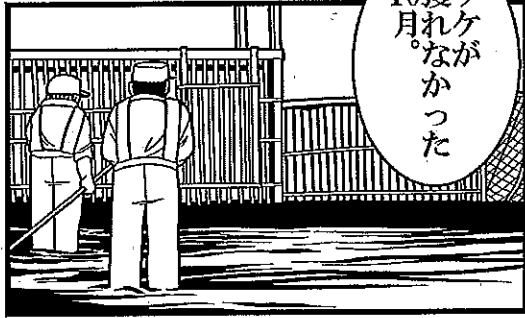
放流した時の稚魚の体重はたったの1グラムですが、平均して4年後に帰ってきた時には4キログラム（4000倍）程度に成長しています。概ね3～5年で帰ってきますが、その期間には幅があり、2年だと1キログラム程度、7年だと10キログラムを超える場合もあります。

国土交通省さんの協力のもと河床を整え、ウライでサケを獲り、

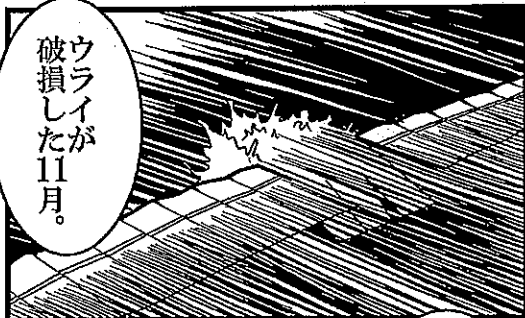
ふ化場の設備や技術が向上して、

獲り方や増やし方やベテランが揃っての

10月。サケが獲れなかった



ウライが破損した11月。



12月。稚魚の水を汲み上げるとポンプが壊れた



そう言えば、

並大抵の事では
ありません。

自然や生き物相手の
伝統文化を守り伝えて
いくのは、

この花館地区に
で来たのは、
最初のふ化場が

明治28年
か。

今も大変
ですが、

昔はもっともつと
大変だったそう
ですなあ……



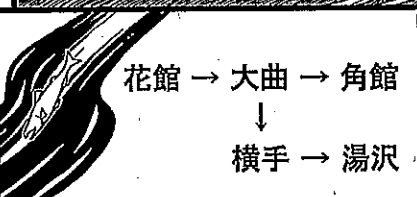
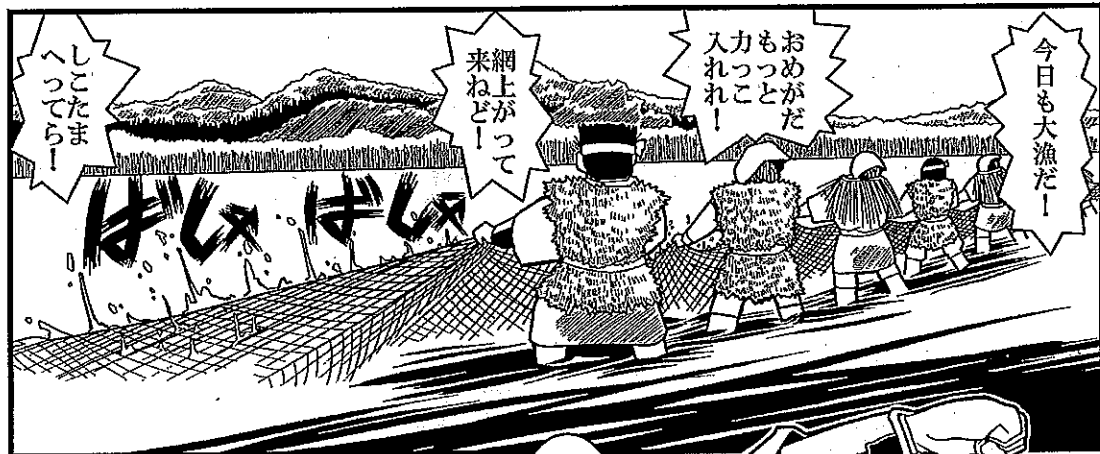
サケの豆知識

サケはアイヌ語で「カムイチュップ（神の魚）」と呼ばれ、貴重な食料として大切にされてきました。アイヌと秋サケの関わりは深く、秘話や伝説が残されています。

花館村玉川流域のサケ漁は
明治時代末期〜大正時代初期に
かけて全盛を極めました。

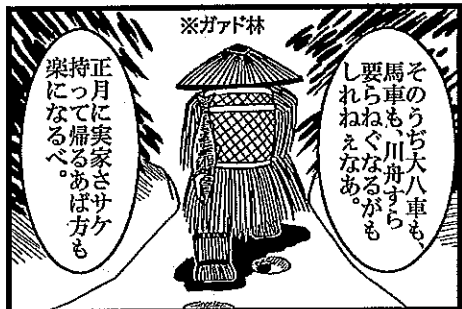
玉川本流、万太郎川、大戸川、
上川、上り川、なだら巻などに
漁場があり、これらを合わせた
一日の総水揚げ量が二千五百本
に及ぶ日もあるほどの活況で、
川金（川のサケから得た利益金
の一部を村人に配当する金額）は
一戸あたり五円を上回りました。

この川金で潤った漁夫は
『川金大尽』ともてはやされ、
花館村に九軒あった茶屋や、
大曲・八幡町でもてかたは
格別で、大いに歓待されました。



平成20年頃からは10〜12月で3000〜5000本ほどの水揚げです。昔ほどの水揚げとならないのは、遡上数の減少のほか、漁場数の減少も影響していると考えられています。

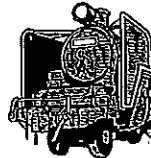
※ガアド林とは玉川右岸、大曲側から見て神宮寺の入り口辺りに広がっていた林です。当時は神宮寺方面への主要道が通っていました。



正月に実家さサケ持って帰るあば方も楽になるべ。

そのうち大八車も馬車も、川舟すらしれねえなあ。

陸蒸気とは汽車のことです。大曲駅は明治37年に開業しました。



そういえば、聞いたすか？

大曲さ陸蒸気だすど。

どんだす。



オーイ！今夜は勤定酒出るがら納屋さ集まれー！

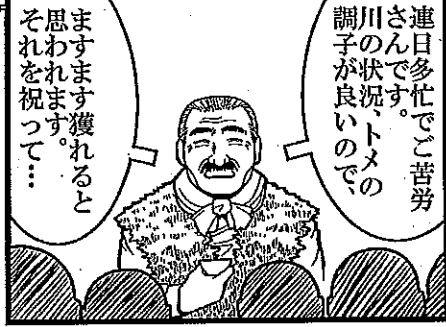
村のおなごがだも来るどー！



おおお

乾杯！

明日も頑張ると川金大尽がだー！



連日多忙でご苦労さんです。川調子が良いので、トメの調子が良いので、

ますます獲れると思われまして、それを祝って！



この頃は川金時代と呼ばれ、大正の初期まで続きました。

花魁名お花豆とソエだ！健を加えてソレ！娘達！

くる日もくる日も豊漁が続きました。いきに



秋田の川での網による漁法は18世紀中頃に始まりました。当時としては進んだ漁法であった鮭網は石巻から伝えられたため、仙台網と呼ばれました。

昭和32年
時は流れ。

雄物川鮭増殖漁業
生産組合を創立。
10組合を
統合し、

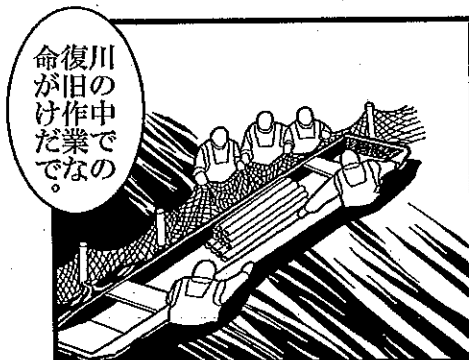
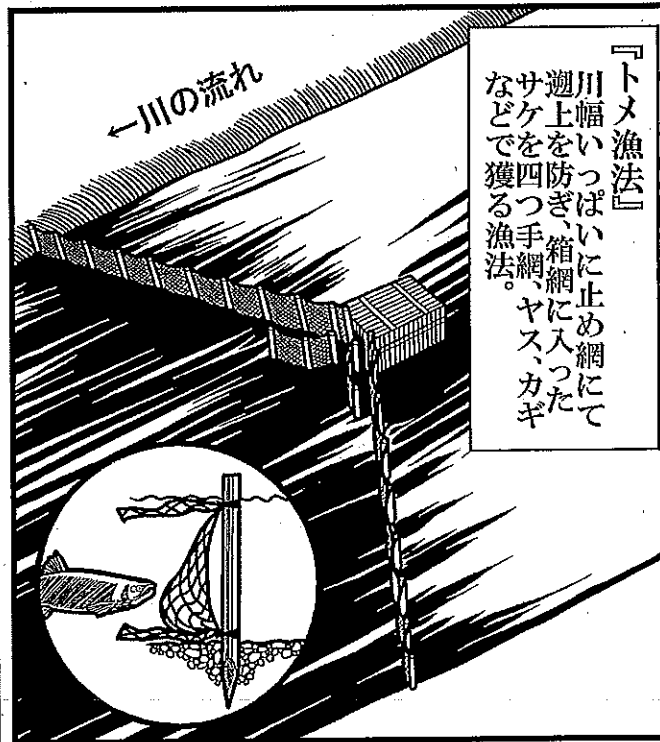
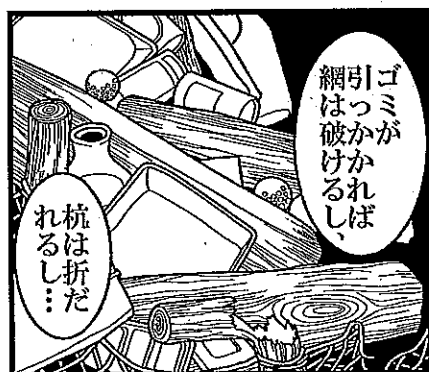
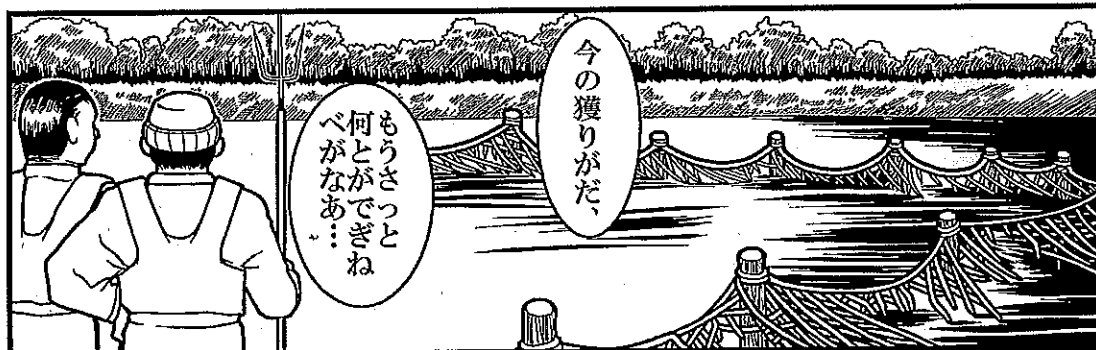
これからは
行ぐすべ!

色々採めて
来だすども、

その一方、

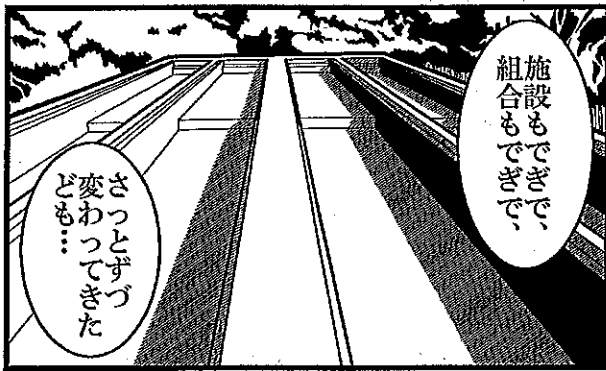
明治の頃から漁場
争いは頭の痛い問題
でしたが、これにより
解決に向いました。

なかなかな
解決しない
問題も。



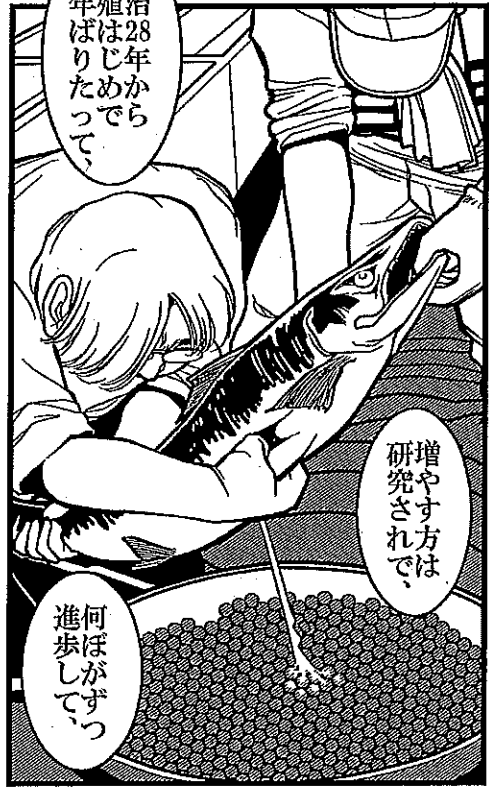
サケの豆知識

当時のサケは高級品で、花船に嫁いできた女性は正月にサケを持って帰省する地域独特の風習がありました。



施設もできず、
組合もできず、

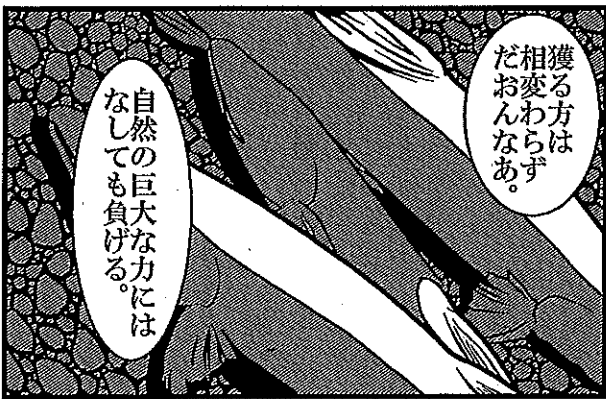
さつとずづ
変わってきた
ども...



明治28年から
増殖はじめて
75年ばりたつて、

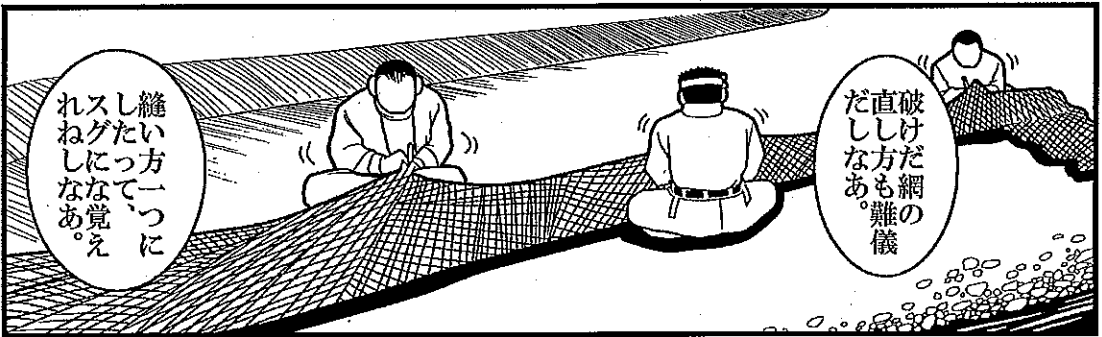
増やす方は
研究されで、

何ほがずつ
進歩してつ



獲る方は
相変わらず
だおんなあ。

自然の巨大な力には
なしても負ける。



破けた網の儀
直し方も難い
だしなあ。

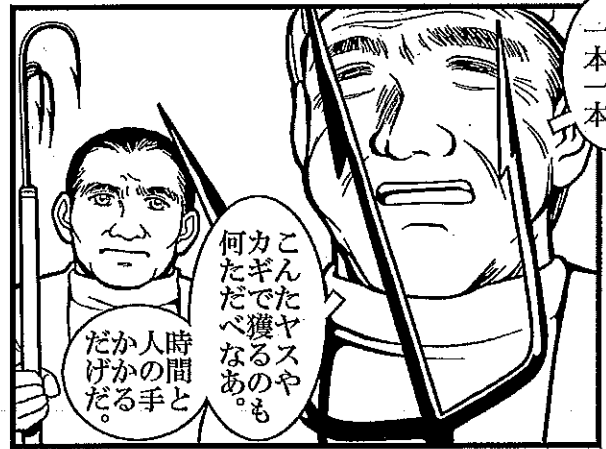
縫いたい方一つに
しグたつてな
れねしなあ。



んだすなあ。

人も昔ほどは
いねぐなつて
いぐすべし。

変えていがねば
ならねすなあ。



それに
一本一本

こんなヤスや
カギで獲るのも
何ただべなあ。

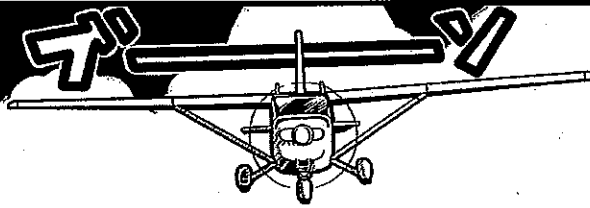
時間と
人かの手
だ。



破れた網の修理は河川敷や駐車場に広げて行われました。
網の修理には熟練を要し、昔から網の修理ができない者は一人前の川師と言われ
ませんでした。

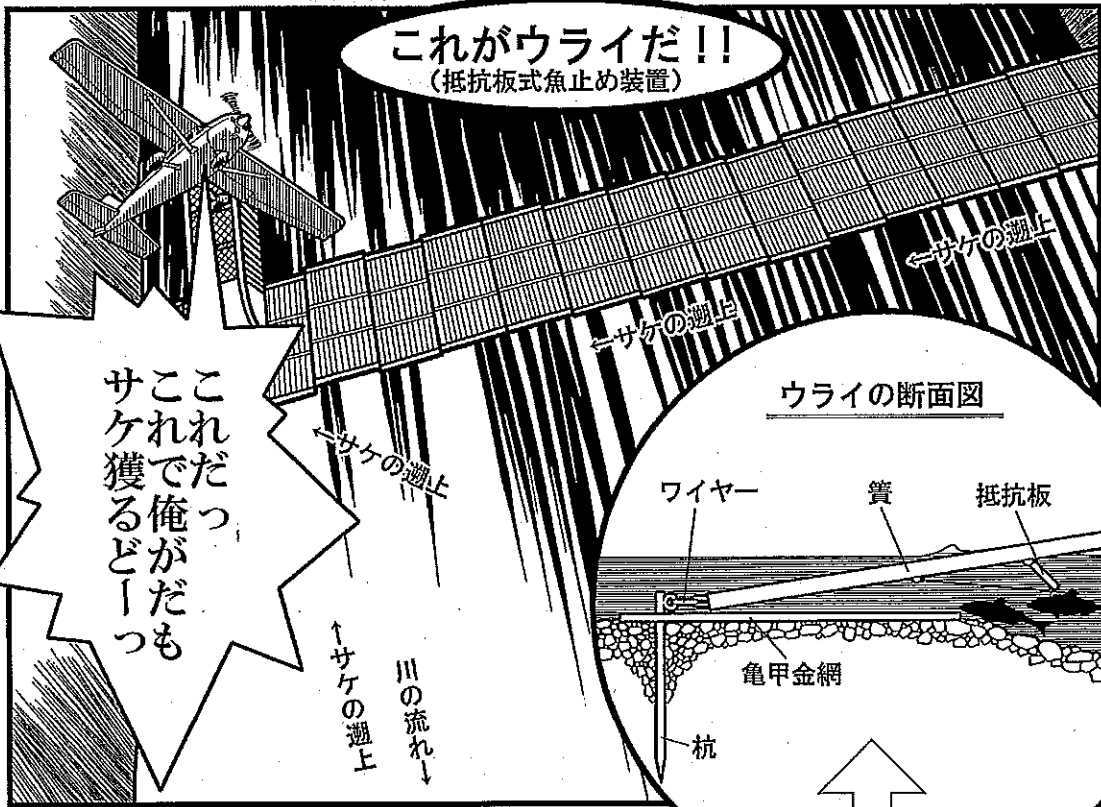
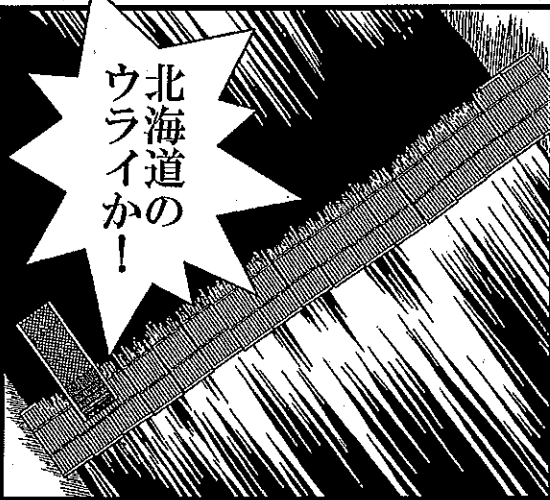
組合統合
から24年後、
昭和56年。

新漁法導入に向け
根本龍太郎氏の
ご尽力もいただき



サケ漁の
先進地域、

北海道の漁場を
当時の組合長と
大曲市の職員と
方が空から視察。



流水が抵抗版に当たる力で簀をはね上げ、濁水から増水まで自動的に浮動します。
川には大小のゴミが流れてきて、簀の上に引っ掛かりますが、たくさんゴミが積もると目詰まりを
起こして簀が水没します。水没するとゴミは自然に流れ去り、簀が浮上します。従来の定置網
(トメ漁法)のようなゴミの引っ掛かりによる破損の可能性が大きく改善され、管理も楽になりました。

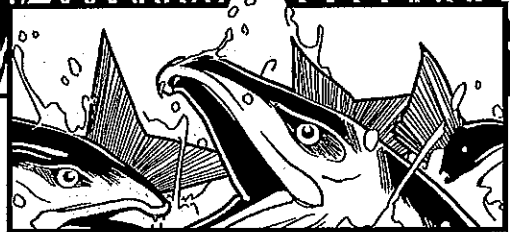


設置、撤去以外は
人手が少なくして
済む訳ですね。

なるほど
これなら

この捕獲槽にサケが
入ってくるのか。

他の川では真似
できませんなあ！



昭和57年には
さつそく、
雄物川にウライを
架けました。

雄物川には従来通り、
玉川には従来通り、
定置網の体制です。

サケ網の導入から
240年ぶりの大変革
となりました！



見てくれず！
127mあるす！

ちよつと
他には無い
規模ですわい

コイツは
すごい！
農林省

Oh!

水産庁



ウライはその性能を発揮し、
年に30,000〜50,000本程の
水揚げをもたらしました。



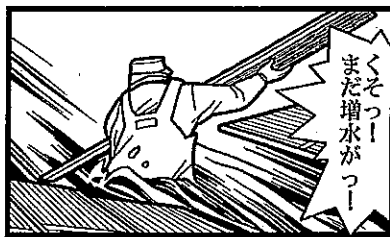
「ウライ」とは北海道先住民であるアイヌの方達の言葉で、「ヤナ」を意味します。アイヌ民族のサケ文化にはロシア沿海州や北方先住民のサケ文化と多くの共通点があります。

ところが、ウライを架けた雄物川漁場では・・・



ウライは力を
発揮できねん
だすなあ...

すっかりした
土台(河床)が
ねば、



くそっ!
まだ増水がっ!



増水でウライが
壊れるのも困る
ども...

河床の流出が
一番の問題
だすなあ。

雄物川の砂利は
雄物川に
細け過ぎるんで
ねすべが...



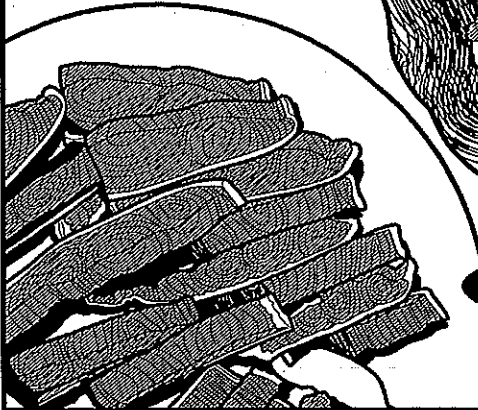
雄物川はウライ
やるに比べが?

しかし、困難の中にもサケの資源利用が
図られ、ウライ設置の前年にオープンした
食堂「サケの里」は鮭採補事業とともに、
昭和59年、大曲市観光キャンペーンの対
象となりました。

サケの伝統料理は
今も地元をはじめと
して継承されており、
美味しく食されてい
ます。

紅葉漬け

丹念にたたかれた
サケの身に、赤く
光るイクラが散り
ばられています。



薫製

香ばしく燻された
スモークサーモン
です。噛むほどに
旨味が広がります。



昭和62年、
集中豪雨で河床流出、
最低の捕獲数を記録し、
修繕費にあえぐ。



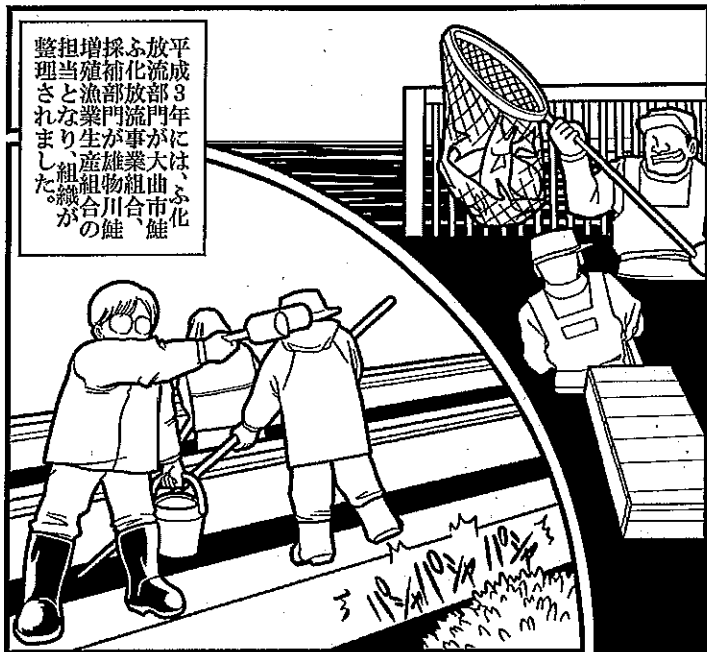
平成3年、
台風19・20号で雄物川、
玉川が氾濫し、ウライ
捕獲槽、杭、網が流出。



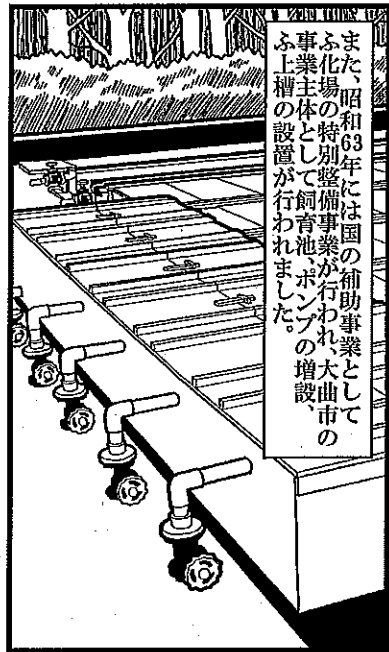
平成5年、
また雄物川の河床
流出、復元しても
採補不可能となる。



秋サケを凍らせて食べる「ルイベ」という料理があります。元来はアイヌ料理の
一種で、語源はアイヌ語のルイベ(融ける魚)です。
また、じん臓の塩辛である「メファン」の語源は、アイヌ語のメファン(じん臓)です。



平成3年には、ふ化放流部門が大曲市、ふ化放流事業組合、雄物川、雄物川産物組合の増殖部門が生産組合の担当となり、組織が整理されました。



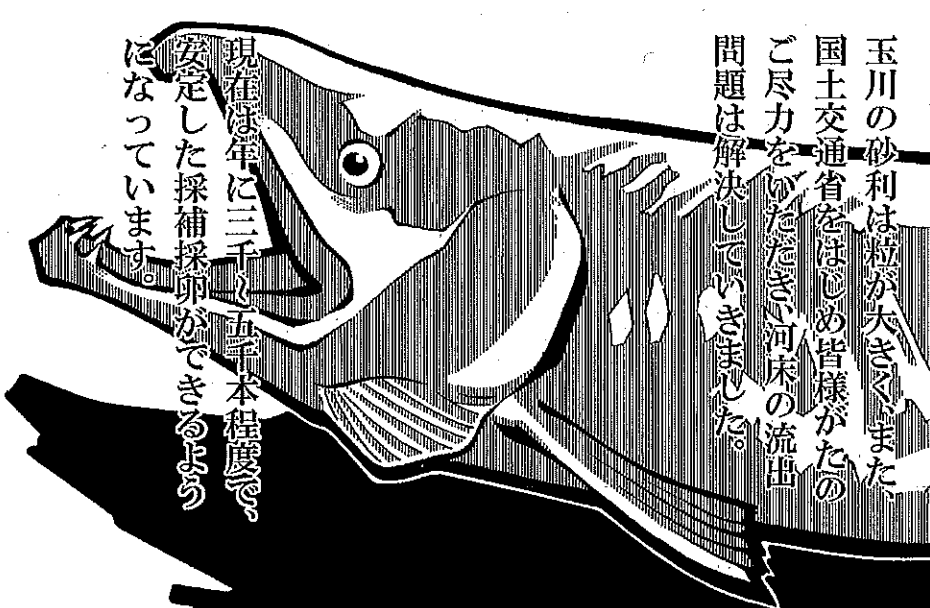
また、昭和63年には国の補助事業としてふ化場の特別整備事業が行われ、大曲市の事業主体として飼育池、ポンプの増設、ふ上槽の設置が行われました。



そして、平成6年、ウライを玉川に移設

玉川は人工ふ化雄物川は自然繁殖の両立でいぐす！

こうすればサケが減るごどあつても、いねぐはならぬ！



現在は年に三千と五千本程度で安定した採捕採卵ができるようになっていきます。

玉川の砂利は粒が大きく、また、国土交通省をはじめ皆様のご尽力をいただき、河床の流出問題は解決してまいりました。



俺がだの力合わせで、

皆さんの力を借りて、

ただしに良くしていぐべ！



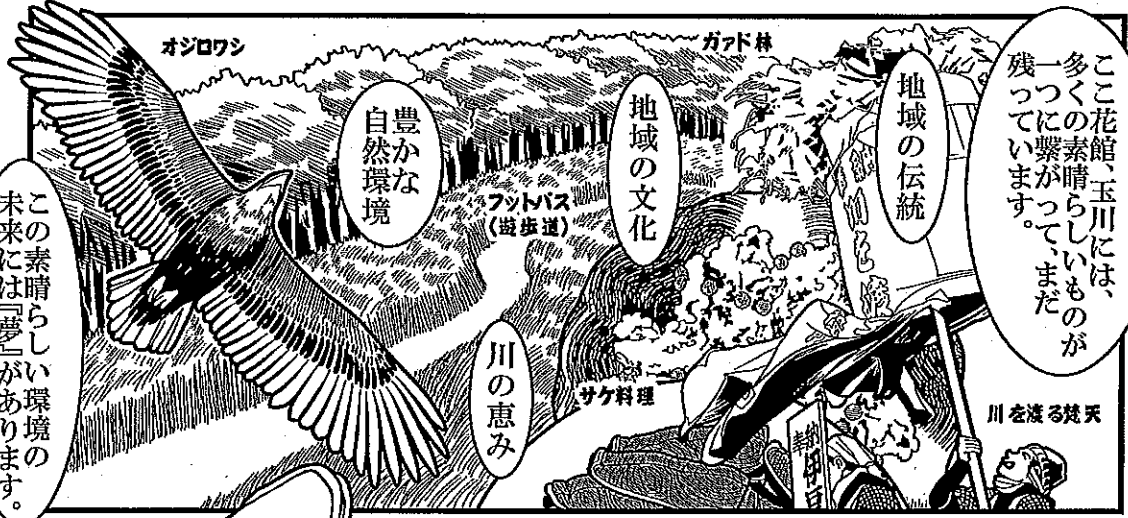
そして、

今に繋がって
いるわけです。

先人のご苦労が
忍ばれますね。

私たちには、

何ができるの
でしょうか？



ここ花館、玉川には、
多くの素晴らしいものが
残っています。まだ

地域の伝統

地域の文化

豊かな
自然環境

川の恵み

この素晴らしい環境の
未来には『夢』があります。



私たちが未来
の世代に守り
伝えていき
ましよう！

まずは、
できる事から
始めようでは
ありませんか。

サケたちが
この川に帰れ
るように！

みんなで力を
あわせて、
環境を美しく
しましょう！

大仙市、市長、大人たち、そして子供の皆さん、
みんな未来に『夢』の花を咲かせましょう！

サケの豆知識

サケは自分が生まれ育ったふるさとの川、母なる川の味とにおいを知っており、何千世代も重ねています。それは、サケが帰ってこられる豊かな自然環境が何千年も続いている事を意味しているのです。

ご協力者・参考文献

大仙市

独立行政法人 水産総合研究センター

写真に見る花館の歴史

大曲の歴史 (附)大曲の史話、異聞、秘話

抵抗版式 魚止め装置 サケ・マスのウライ

雄物川の漁業 四季

シリーズ 秋田の民衆史 3 雄物川往来史(上)

シリーズ 秋田の民衆史 4 雄物川往来史(下)

岩田幸助写真集 秋田 昭和三十年(1955)前後

思い出のアルバム 大曲 角館 六郷

大仙市鮭ふ化放流事業組合

雄物川鮭増殖漁業生産組合

〃

〃

雄物川鮭増殖漁業生産組合 50年間の歩み

栗林 次美 市長

清水 勝 氏

大曲市花館財産区

三森 英逸 氏

大信工業株式会社

島田 亮三 氏

佐藤 清一郎 氏

〃

岩田 幸助 氏

安部 甲 氏

三浦 正人 技師

三浦 尚 組合長理事

佐々木 豊 代表幹事

寺村 徳昭 理事

雄物川鮭増殖漁業生産組合

平成24年6月13日

花館のサケの歴史

原作 雄物川鮭増殖漁業生産組合
漫画 株式会社丸茂組

本著作に関する著作権は株式会社丸茂組が所有します。

Copyright © 2012 by Marushige Corporation.